

「神明社」と「牡石・牝石」の位置

猪子石の地名の由来となったとも伝えられるイノシシに似た自然石が牡牝の二体あります



猪子石神社 名東区香坂 515
牡石
半ば埋もれた野猪に似た石で、昔から触ると「タタリ」があるといわれてきました。



大石神社 名東区山の手 1-707
牝石
小石が付着していることから「子持石」とも呼ばれ、安産の神として敬われてきました。



参考:「亥の子信仰」日本の民俗信仰に見える田の神。「猪の子」と書くこともある。イノシシが一度に十二匹もの子供を産むとされることから、多産の神として信仰されるようになり、後に農業と結びついて豊穡の神とされるようになったと考えられている。陰暦の亥の月、亥の日、亥の刻に新穀でついた餅を食べて亥の子を祝う行事があり、宮廷行事として平安初期から行われてきた。これは収穫の終わる時期であり、民間では収穫祭の日とされた。亥の子祭りを春に行う地域もあり、これはイノシシが春に山から下りてきて田んぼの近くに住居を移すことに由来すると考えられている。